

令和6年度 卒業論文要旨・講評

学 生 氏 名	伊 澤 賢 美
論 文 タ イ ト ル	コミュニティ問題の再考—温泉街の存続を目指して—
要 旨	<p>本研究は、地域経済を支える商工業者の活動をコミュニティの視点から捉え、その現状と課題を分析し、解決策を提示することを目的とする。従来の中小企業研究では、地域に根差した商工業者のアソシエーションを対象とする研究ほとんど見られない。また、社会学のコミュニティ研究においても、社会の変動が人々の社会関係に与える影響に関する見解は収束していない。</p> <p>本研究では、B. Wellmanが提起したコミュニティ問題にもとづき、現代日本におけるコミュニティのあり方や目指すべき方向性を理論的・実証的に探求する。そのため、「縁」と「紐帯」に注目した分析枠組みを用いて、群馬県安中市の磯部温泉組合を中心に、神奈川県藤沢市の「ものきの家」および群馬県富岡市の「富岡げんき塾」との比較分析を行った。</p> <p>質的・量的調査による分析の結果、磯部温泉組合のコミュニティのあり方が明らかになり、外部との接点をもつことによる課題解決の可能性が示唆された。</p>
講 評	<p>本論文は、地域社会の課題を丹念に分析し、新たな視点を提示した優れた研究である。神奈川県藤沢市、群馬県富岡市、群馬県安中市の3地域を対象に、社会学の手法を用いた質的・量的調査を実施し、磯部温泉組合が外部との接点を持つことで関係人口を増加させ、課題を改善できる可能性を示唆している点が高く評価できる。</p> <p>また、フィールドワークやアンケートを活用し、社会的な理論枠組みに基づいた実証的な議論を展開している点も優れている。地域コミュニティと商工業者の関係に着目し、先行研究を踏まえた学術的な議論を行っている点も評価に値する。本論文は、地域社会の活性化に寄与する貴重な示唆を提供している。</p>